

武士道

Pride of Japan

BUSHIDO

第12号

今の日本はこのままでいいのだろうか



武士道憲章 十一章

- 一、 武士道は、天地自然の理法と共に生きる 【自然】
- 一、 武士道は、時空を超越する 【超越】
- 一、 武士道は、心の清明を希求する 【清明】
- 一、 武士道は、志を尊ぶ 【立志】
- 一、 武士道は、公正にして信義を守る 【正義】
- 一、 武士道は、剛直を以て旨とする 【剛勇】
- 一、 武士道は、惻隱の情を心に蔵する 【仁愛】
- 一、 武士道は、礼節を重んじ、恥を知る 【廉恥】
- 一、 武士道は、忠誠心を堅持する 【忠誠】
- 一、 武士道は、親孝行は報恩と心得る 【孝行】
- 一、 武士道は、自己陶冶を精励する 【修養】

武士道憲章が11章となってから日が経過し、定着して参りました。

「武士道は、天地自然の理法と共に生きることを認識し（自然）、時空を超越することで神々を畏怖し先祖の供養をする（超越）、その上で、清明心で生きることを誓い（清明）、志を立て（立志）、公正にして信義を守り（正義）、剛直を以て旨とし（剛勇）、そくいん惻隱の情を心に蔵し（仁愛）、礼節を重んじ恥を知り（れんち廉恥）、忠誠心を堅持し（忠誠）、親孝行は報恩と心得（孝行）た上で、自己陶冶に精励する（修養）こと」

上記を日々積み重ねることで武士道の実践となることから、武士道憲章11章の順番も自然、超越、清明、立志、正義、仁愛、忠誠、剛勇、廉恥、修養となっております。

昨年発信致しました武士道憲章解題も合わせてご拝読頂きたくお願い申し上げます。

巻

頭

言

山田 義富
Yoshitomi Yamada



まいりました。

被災された方々、不幸にして大切な命を落とされた方々のご冥福をお祈りし、心よりお見舞い申し上げるとともに一日も早い復興を願ってやみません。

我が国に限らず、海外に目を向けても多くの事象が発生し、世界規模、地球規模での異変が生じつつあるといっても過言ではなさそうに思えます。

記録的とか観測史上初、という聞きなれない言葉が何度も聞こえてきました。

私たちが学ばせていただく武士道憲章の中には天地自然の理法がありますが、これに照らさずとも、温暖化や、それによる記録的猛暑等の異常気象なんかも地球をお借りしている我々人類の愚かな行いによる人為的なもの、そして続けて起きている大きな災害も私たちの愚かな行いを悟らせる意味での神様からの警告と考えてみますとすべての辻褄が合うように私は思うのですが。

そんな思いの中、日吉大社で参加させていただいたワークショップの中で、古武術や参拝体験で日ごろとは違うたくさんの気づきを

得させていただいたのはもちろんですが、何よりも大自然の中、空気のおいしさ、きれいで、冷たい流れに清められながら感じたのは、今の日本で失われつつある大切なもの、便利さや快適さと引き換えに無くしてしまった昔の

日本の古きよきものを感じながら、このような自然に触れ合う研修会も大切に思うので継続出来たら素晴らしいと思います。

ワークショップ開催にあたり数々の準備や打ち合わせ等のご尽力くださった日吉大社様、協会青年部の皆様に厚く御礼申し上げます。

山田 義富

1961年 大阪府生まれ

小中学校時代に大阪、和歌山、京都と転居し現在は和歌山で定住

1995年 設計施工 三協工務店設立
2006年 不動産業 (侘紀南開発代表就任)
建築、設計、宅地分譲に携わり現在に至る

皆様こんにちは

まず始めに今年とは例年と違い多くの自然災害が発生してしまいました。

国内においては、豪雪に始まり、大阪北部地震、西日本豪雨災害、巨大台風20号、北海道胆振地震：と立続けに甚大な被害が起きてし

三者談話

そのまま掲載

(武士道11号より続く)

11号の最後は奈良先生が「自分だけでなく総ての人が全部楽しくならないと楽しくなれないということを、段々分かっていくわけね。その時、一番大事なことはね、非常に大事で難しいことは何だということ、正直ということなんです、嘘を言わないということなんです。これはなかなか難しい。やっぱり自分をどこか良く見せたい。自分が知られて恥ずかしいというものがあると出したくない」というところまで掲載しました。その続きです。

(武士道12号)

立山 そうですね、まあまあそう思ってますものね

全員 (笑)

奈良 そこが非常に難しい。これをね、生涯をかけてね、正直になろうとした人、その一人はガンジーさんですね。

立山 おおー

奈良 あれは完ぺきではなかったけれど、常に正直であろうとした人ね。

立山 ああー

奈良 だから、自分のね、過ちとか自分の恥ずかしいこととか、全部自伝に書き出していますね。

立山 ああー

奈良 普通の人とは出来ませんね、ええ。

立山 見栄から何かあるもんですね。(笑)

奈良 どうしても綺麗ごとを言いますけれど、みんな自己愛ですものね、私もそうですし。だから、それで生涯貫いたんですが、それ



故 奈良 毅 先生

でも完璧ではなかったから、最後は殺されちゃいますよ。

立山 ああーはあはあ。

本多 完璧だったら殺されなかった？

立山 殺されなかった。

本多 ふうむ。

奈良 先生、方便はどうなるのですか？

本多 方便？ それはね他人の為にね、喜ばす為に使うなら、それはそれなりに意味があるでしょう。本当のことを言うことでね、それは自分に対しては正直であるべきですよ。

奈良 ね、相手に対してはこれをやって相手が悲しむか苦しむかといった場合ね、やっぱり苦しめない言い方で伝えた方が良いわけよね。そういう時は方便ということになっちゃうと思うんです。本当のことを言っていないわけですから。はい。

立山 昔からですね、嘘も方便という言葉はでていますものね。

奈良 そうそうそう、悪い事としてとられる場合がありますけれど、それはやっぱり自分を良くするための方便はやっぱり困りますよ。

立山 はいはいはい、そうですね。

奈良 相手を喜ばせたり、やはり安心させるためには、そこには愛が入ってますからね、それは許されるんじゃないでしょうか？ 嘘を言っているわけじゃないんですよ。(笑)

立山 嘘じゃなくて。

立山

ええ、それはもう、だからそういうことを嘘も方便と言いますものね。怨み妬み嫉みとかです、嫉妬とか、人間はその、簡単に言えば良い心と悪い心があつてですね、切磋琢磨するじゃないですかね。ある時はそのものすごくそういった感情になるけれど、しかし、元々が神の子であるとするならばですね、それからそれに対して自己嫌悪が起きるでしょう？

奈良

そうですね。

立山

いやあ、俺は何てつまらない人間なのかなど。それで、また頑張ろうとするわけですよ。

奈良

そうですね。

立山

だから、その瞬間の時は確かに嫉妬をしたと、しかし、三日経ったらですね、それをクリアすることもできませんものね、人、は。と思うんですけれどね。(笑) 01・55

奈良

いや、まあ、出来る人と出来ない人がいますけれどね。

立山

ええ、昔から、「男子三日会わざれば刮目して見るべし(見よ)」という諺もありま

奈良

すし、ずっと上の方へ自分を鍛えて何かを求めていく人達にとっちゃ人間の気持

立山

ち、恨み妬みとか、それがだんだんと最終的にはなくなっていく良いんで、まあ、我々人間にはそこまですりか無理だと思

本多

すものね。(笑)

立山

ううーん、自分が年々蓄積してきたもの、一生懸命頑張って蓄積してきたものを崩してしまふのって、だいたいその嫉妬心が

奈良

すぐく大きい様に思うんです。

本多

そうですね。その通りです、その通りですよ。

奈良

はい。壊すのって、怒りもあるけれど、怒りよりも嫉妬心の方が自分で自爆しちゃ

本多

うんじやないかと…。

立山

うんじやないかと…。

奈良

ありますね。キリスト教でもね、所謂、天使と言う存在がありますよね。四大天使というようなことをよくカソリックなんかで言います。で、一番神に近いとされている天使が、時々天使でなくなる時があるのね(笑) それはどういった時か? それは、嫉妬した時なんです。

立山

どういう時に嫉妬するか? 例えば聖書なんか見ますとね、神がアダムにリンゴのね、(電話のベルが鳴り、一時中断)

奈良

その時、四大天使の一番最高の天使が、「神様は人間というのを作られた、我々よりも人間を愛するのではないか?」という猜疑心とか疑いの気持ちが出るわけね。それで何とかして神の嫌がることをさせようとするわけですよ。

立山

天使もそういうことを考えるわけですか(笑)

奈良

嫉妬心ですよ。嫉妬心でね、それは蛇になる前ですけど、神はイチジクの実を食べちゃいけないということを言うわけですよ。それでそれをちゃんと守っていたのだけけど守らせない様にするわけですよ。あのイチジクの実を食べれば永遠の命が手に入る、絶対死ななくなるってね。神と同じ知恵を得られるとかね。だから食べなさい、食べなさいというわけね(笑)

立山

ああ、はい、はい。

奈良

それは嫉妬心で言っているわけで、親切心で言っているわけではないんですよ。(笑)

立山

そうですね。そうですね。そして神の禁じたことを犯させて、それ自分から人間の方に神の愛情が移ることを防ごうとした。結果としてはアダムもイブも天国から追放されて地上に降りていくわ

けでしょう。その、そのかした天使はね、結局は蛇にされちゃうわけですよ。だからね、どんなに神に近い人でも、そういう危険性はいつでもある。その落ちるきつかけは嫉妬心ですよ。それは夫婦間もそうですよ。嫉妬心がダメにしちゃうのね。

立山

ううーん、ただね、何か嫉妬心と言うと確かに先生のおっしゃる通りですけど、また何か可愛い所もあるんですよ、嫉妬心って(笑)

奈良

それは、ヤキモチ程度の嫉妬心ならいいですけどね(笑)、人を貶(おとし)める(笑)はい、はい。

本多

そのヤキモチって、同性の方が強い様に思っうんですよ。

奈良

それは、男性女性係りない、関係ないですよ。

本多

あ、そうではなくて、異性に思う嫉妬心よりも同性同士に対する嫉妬心の方が、怨み

奈良

が大きいような、引き摺り下ろすところがすごい様な。まあ、それは人にもよるし、測る基準って絶対的なものはないでしょう、相対的な物であって。それは同性であろうが異性であろうが、或いは年代観の違いがあるうが、やっぱり羨ましいと思う気持ちがあるうが、強くなると、人ってそうなってますよ。まあ、最初は素晴らしいと思っても、自分もそうなりたい、なかなかない、すると憎らしいところまで行っちゃうわ



立山 雄二 副理事長



武道協会副理事長兼事務局長

本多 百代

奈良 毅【プロフィール】

2014年1月20日没。1932年 秋田市生まれ。東京外国語大学名誉教授、清泉女子大学教授歴任。
秋田大学学芸部国語国文学科学芸学士、東京大学大学院人文学科研究科言語学(文学修士)、インド共和国カルカッタ大学院人文学科研究科比較言語学(哲学博士)
1964年より30年間、東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究勤務、現在同大学名誉教授。その間、国内外の7大学で教授・非常勤講師歴任。
1995年より8年間、清泉女子大学勤務(同大学言語文化専攻主任教授、人文学科研究所長、地球市民学系主任教授(財)日印協会顧問、(財)オイスカ顧問(団長)、日本パンダラデシユ協会顧問、(財)ラポ国際交流センター評議員、パンダラアカデミー終身会員、日本語学会維持会員、日本南アジア学会会員
生前の活動…祈りによる広島平和市民運動代表、世界平和と少数民族の言語文化及び球環境保全のための運動

立山 雄二【プロフィール】

武士道協会副理事長兼九州地区本部長、五光設計株式会社代表取締役
経歴：熊本県玉名市出身。県立玉名高校・福岡大学工学部卒業。高校時代に柔道2段。大学時代に福大小林寺拳法部で活躍。
1983年土木設計コンサルタント会社である五光設計株式会社を創設、代表取締役に就任。また、株式会社八光代表取締役社長に就任し、今日に至る。

けですよ。なかなか難しい。それはやっぱり自分が神であるということを忘れていから、ついそうなっちゃう。神であるというのを常に思い出すことができれば、全て差別とか区別する気持ちがなくなるんですよ。
相手が良く見えても、「ああこれは自分のここが良いんだ、自分自身が良いと思っちゃうのね、良いと思えるわけよね」そう思えないとよく嫉妬心がでちゃうのね。



武士道協会副理事長兼
事務局長

本多 百代

大和心武士道

「和の心」それは、和み、調和し、融和すること。人間の肉体と同じ仕組みであり、赦しと受け入れを一言で言い表しています。言うは易し行うは難し。まさに人生に織りなす様々な出来事により、和の心を育てる仕組みが出来上がっている様に思えてなりません。それを一言で言うならば、親の愛情、神の愛、というのが一番合っている様に思います。

人間は不完全であり、人間だから間違いがあつて当たり前と誰もが言います。つまり、完全になるために日々の不幸があり、だからこそ、苛立ちや怒り、嫉妬、怨念を抱き辛い時を過ご

すことの方が、幸せと感じて過ごす時間より多く設定されているのでしょうか。苛立ちや怒り、嫉妬、怨念の思いを如何に少なくすることができるか？ その修行こそが和の心武士道精神を身に付けることと云えるのです。もちろん武士道だけでなく、様々な宗教や哲学、人間学のセミナー等もその一部を担っているでしょう。

しかし、武士道は矛を止める(武)ことを究めた(十)生き方(道)と文字が語っているが如く、怒り、嫉妬、怨念等の負の感情を払拭する生き方を試みることで、思いもよらない幸せが舞い降りてくるのが、今までの経験の中から断言できることの様に思っています。腹立たしいことも、相手の立場で考えてみると納得出来るものです。例えば、腹立たしい相手に対して、もしこれが我が子だったら…、と思うだけでも赦している自分を発見できたりするものです。人間は目が前方を向き、外(自分以外)を見るように出来ているが故に、我と我が身や己の内面を観察することが出来ません。だから、一呼吸して立場を替えてみるのです。武士道協会は、その外に向けている目を、内側にも向けるように、そして、俺が、私が、という自己保身の気持ちを捨てられる方法を模索するために、必要不可欠な存在です。武士道協会の中で、ボランティアをして自己研鑽をするのか、或いは、活学の勉強や研究を通して自己研鑽をするのか、それぞれが自由に決めるものなのです。

武士道憲章11章はその道標であり、お手本的生活方とも言えます。出来なくて当たり前前だけど、出来るようになったら素晴らしいし、多くの人に幸せと感じて頂ける人生となるでしょう。

その時が、人間として生まれてきて一番幸せな時と言えるのではないのでしょうか。

世の為人の為にと思う社会貢献は、未完成な人間が一生懸命自分以外の人の為に尽くそうと思う気持ちの表れです。まずは気持ちから、そして実行へとシフトしていきましょう。気持ちがなければ何も生まれません。他人の喜ぶ顔を見て自分の魂を成長させましょう。それは、そのまま親孝行にもなるのですから。親孝行をしている自分の姿を子供が見て真似る。これが日本人の生き方であり武士道でした。だからこそ世界に広めて行きませんか？

本多 百代 【プロフィール】

武士道協会副理事長兼事務局長、株式会社八光(旧ラインエイジ)取締役会長
経歴：中日新聞名古屋本社中日研修センターで8年間、中日新聞東京本社企画開発室で4年間、組織開発(OD)プロデューサー、研修講師として勤務し、組織立ち上げ、営業(テレアポ・訪問)教育と人材育成プログラムの開発を担う。二〇〇四年人材育成のラインエイジを創設し代表取締役人兼任、二〇一四年ラインエイジを株式会社八光と社名変更して取締役会長に就任。大学特別講師(中央大学、大妻女子大学、大東文化大学etc)、教育委員会、青年商工会、商工会議所青年部、JY青年部会、神奈川県議会、農協、ロータリークラブ、中小企業同友会、倫理法人会、異業種交流会、全会津文化祭会津エンジン、中日新聞社、朝日新聞社、民間企業専属研修講師、武士道協会人間力向上セミナー講師、武士道学校講師、さむらい塾(子供教室)講師、他多数。
著書：「これで完璧人材育成白書」酒寄ユリヤ著、ペンネーム



常務理事兼
関東地区本部長
青山 誠

弓道精神は 武士道精神

私は五八歳から「弓道」を学びました。武士道の学びを深めたい私の、六十の手習いに近い一念発起でした。武士道というと多くの人が武道？というように、武士道と武道は非常に親密な関係にあります。しかし、武道と一言で言ってもそれは其々様々で、殆どの武道は相手があります。したがって殆どの武道は「相手に勝つ」という観念が強いと思いますし、またそれも致し方ないのかもしれない。ところが、弓道について申し上げれば、弓道は練習や試合では動かない、形も変えない的を射るのですから「戦う相手に勝つ」という観念が生じる事は本来ないはずなのです。これは和弓の歴史を振り返って

見ても、非常に腑に落ちるところです。初めは狩りをする為の道具として弓が生まれたのは世界中いづこも同様でありましょう。そして文明が発達するにつれて弓矢は人を殺す為の武器に変化していきました。しかし、より文明が発達していくと鉄砲や大砲が発明されたことになり、弓は武器としての役割を終えることになりました。この様な時代背景を携えながら、江戸時代の武士達は「文武両道」を唱え、「武士道」とともに弓道を承継し続けたのです。それだからこそ、武芸十八般の上位に弓術を位置づけたのであり、それは正に武士道精神の修練を目的としていたからと言えるのではないのでしょうか。つまり、人を殺すための道具から己を生かす為の道具へと弓は変化を遂げていったのです。

因みに、徳川最後の将軍「徳川慶喜」も晩年まで弓を引き続けたようですが、彼の心境は如何なものだったのでしょうか？彼が身を引くことで大政奉還という偉業がなされました。それが、日本の将来を思い己の欲を捨てた姿だったとしたら、もしかすると彼の心は完成されており、「無」の境地に至っていたのかもしれない。全日本弓道連盟の掲げる弓道の最高目標は「真・善・美」です。それは、「三位一体」「心身弓」「心技体」「真行草」などの言葉でも表現されておりますが、それらの総てが、心と体と技が一体化する事により、自然に同化され、「悟り」の境地に至る過程を表しております。さらに、安沢平次郎範士十段は、「射道は修養法としてのみならず、深い哲理の上に立ち、一切の迷見煩惱を裁断して自己本然の姿を完全に発現する努力、これが弓を通して成さんとする射の教えである」と言っています。

このような理念は弓道に限らず、全ての武道、

全ての道を志す人達に共通するものだと思います。しかし、昨今の「スポーツ界」をみますと「勝つ事」のみを重視しているように思えてなりません。驚くべき事に、純真な心を持つ小学生のサッカーや野球チームでも親御様が率先して「勝」を望んでいる姿をあちこちで見かけます。これは、日本全体が、技術と同時に学ぶべき心の修練を怠っていると云っても過言でない様に思っています。

文頭に申し上げました通り相手のあるスポーツでは第一の目的が「勝つ」事にあっても致し方がないのでしたが、その勝つことを通して、負けた相手の心を思いやり、支えてくれて育ててくれた親や恩師に感謝の思いを持つことなど、己の心を磨くことで成長があるのではないのでしょうか。

それこそが「道」を学ぶ者の最も心がける事であることを武士道協会の一員として再認識する次第であります。

青山 誠 【プロフィール】

1957年 広島県福山市 誕生
福山市立光小学校では児童会長に就任
福山市立鷹取中学校では学年幹事に就任
広島県立国泰寺高校では普通の少年で卒業
ちよつと変化に富んだ社会人として
インドネシアバリ島でシーフドレストラン開業
リラクゼーションサロン「サンタイ」開業して人生を謳歌する
その後、2016年 株式会社 川俣組 常務取締役
2017年 弓道二段取得
武士道協会常務理事兼関東地区本部長

「第一回武士道ワークショップ in 日吉大社」開催のご報告



武士道協会理事兼
広報部長

本多 康裕



武士道協会理事兼
青年部部长

藤島 健

この度は、「第一回武士道ワークショップin日吉大社」を無事に開催させていただき、また大勢の方々にお越しいただくことができました。誠に有難うございました。この場を借りて改めて感謝の意を表します。

さて、開催にあたりまして、本当に多くの方々を支えていただいたことで、開催にこぎつけることができました。日吉大社の馬淵宮司様（武士道協会理事）をはじめ、特に権宮司様、禰宜様、権禰宜様方には感謝しても仕切れないほどのご支援をいただきました。開催場所の提供、ワークショップ（特別教室・座学、境内の参拝）など、事前の準備から全てに時間割いて立ち会っていただき、当日は来場される皆様の導線確認や準備物の確認など、細やかな部分まで気を遣っていただきました。また、協会幹部からのアドバイスや支援があつて、開催が実現したことも忘れられない経験になりました。今回のワークショップを通して、社会貢献をしているはずの私たちスタッフが、様々な事を学ばせていただく機会となりました。学ばせて頂いた事を具体的に申し上げます。

「二度決めたことは、必ず最後までやりとげること」

一度決めたことは必ず最後までやりと

げるとは、日頃から武士道協会の勉強会で学んでいる事でありましたが、いざ実践となった時、背を向けている自分を発見しました。開催するまでの事前準備

で思うように進まず上手くないことが多く出てきてしまつたら、すぐに諦める方向に志向が及んでいました。初めての事へ挑戦する時、諦める事はとても簡単でありました。今回の開催にあたり、些細なことで開催自体を諦めようとしておりました。

その時、何を考えたかというところ、それは「できない理由」でした。例えば、集客、段取り、開催費用の捻出など…数えきれない程のできない理由を考え、言い訳をたくさん用意しておりました。もちろん、自分は一生懸命しているのに状況が状況だけに難しいと決め込んでいました。その時、幹部の方から「喝！」の一言。温かく厳しいアドバイスや、支援いただいたことで開催する運びとなりました。

武士道協会の数少ない若者が中心となつて実行したわけですが、特に私の相棒





講義 大和心

講義 日吉大社境内



講義 作法

の本多康裕くんが何度も計画を練り直し、周囲と調整してくれなければ実行にはならなかったと思います。その姿を目の当たりにしたことで、私自身も最後までやり抜く力が湧き出しました。楽しみながら実行しなければならぬと、心から感じました。

今回の経験は、このワークショップだけでなく日頃の生活でも同じことが言えるのではないかと、ということに気付かせて頂きました。何でもそうですが、周囲の方々の支えがあつて初めて成し遂げることができるということ。最後まであきらめずにやり抜く克己心が大きな成果につながるということ。これは私にとって財産となりました。今後も様々な場面で活かしていきたいです。そして、来年はさらに多くの方へ告知をさせていただき、もっとスムーズな運営ができるように工夫を

山王総本宮 日吉大社

日吉大社西本宮御鎮座1350年記念

第1回 武士道ワークショップ in 日吉大社

場所：日吉会館（山王総本宮 日吉大社内）

日程：8月4日（土）10時～16時30分

費用：3500円（屋食付き）

アクセス：京阪石山坂本線 坂本比叡山口駅（徒歩10分）

日吉大社 社務所
電話：077-578-0009

武士道協会 事務局
メール：iaf@bushido.or.jp
電話：03-5325-2660


武士道協会 理事長 榎木 孝明

プログラム内容

- 古武術式作法教室 榎木 孝明 講師
- 日吉大社特別教室 日吉大社 神職
- 大和心を育む武士道教室 本多 百代 講師

古武術式作法を直接指導

武道という概念だけでなく、正しい姿勢、体の使い方理解する事による日常生活の体への負担の軽減など、日々の生活に活かせるアレコレがたくさん詰まっています！！誰もが嫌がる怪我も古武術的な体になる事により軽減できます。逆に何か武術やスポーツをされていらしゃいましたら、現代の固定概念を覆される驚きを体験して頂けると幸いです。




西本宮御門

し、私自身ももつともつと成長したいと思えます。

武士道協会広報部 より活動報告



武士道協会理事兼広報部長
本多 康裕

今年（2018年）、私は初めて広報部としての活動に従事し、また、実践に移すことができました。今は達成感と同時にもっと上手くするにはどうしたらよいか？ と思う挑戦の気持ちで満ちた中でご報告させていただきます。

1年間の活動を通して、武士道協会の榎木孝明理事長始め、日吉大社宮司でもある馬淵直樹理事、日吉大社の神官の皆様、また、ユニファイドサッカーでご協力いただいた方々、本多百代副理事長、立山雄二副理事長、山田義富常務理事、雪下常務理事、青山理事、廣森日出夫京都支部長、藤島青年部部长に改めてこの場を借りて御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

【活動内容】

① 2018年6月16日(出)〜17(回)で、ユニファイドサッカー大会に武士道協会ボランティア部隊として藤島部長の紹介で参加し、裏方の仕事に従事して参りました。毎年参

加を計画しております。大阪府堺市のJ・GREEN堺にて「2018年第3回全国ユニファイドサッカー大会」が開催されました。ユニファイドサッカーとは知的障害のある方とない方でパートナーを組んでチームを作り、競技を行うものです。障がいの有無に関わらず誰もがスポーツを楽しむ環境が当たり前となるように普及を促進する活動です。（JFAのHPに詳しく掲載されています）

② 2018年8月武士道ワークショップ in 日吉大社を主催

この度のワークショップには、計52名という多くの方々にご参加いただきました。武士道ワークショップの開催は、藤島さんと私は本当に困難、苦難の連続で、とても一人では成し得なかった事を心から痛感いたしております。青年部の藤島部長には、苦難と直面した折々で相談に乗ってもらい、共に解決策を導き出し、私を引っ張っていつてくださいました。藤島部長なくして実現はあり得ませんでした。心から感謝しております。

武士道ワークショップは3部制で行いました。第1部は榎木理事長の古武術式作法教室では自分の体の使い方、意識のあり方、自然体のあり方、虐めがなくなる立ち姿などを座敷にて学びました。第2部は宮司である馬淵理事から日吉大社の歴史や神道に関する講義を20分ほど座学にて学んだあとに、禰宜様に境内を案内していただきながら、参拝の作法を学び、神様と同じ場で同じ時を過ごしまし

た。散策をしながらの講義も大変貴重な体験ができました。境内を流れる川で禊をし小休憩を行った時は誰もが満面の笑であったことが印象的でした。第3部で最終講義は、本多副理事長の人間の欲に関する参加型セミナーでした。参加者が6名1チームになり、各チーム毎に意見交換をしました。その後、グループ毎に発表をし、講師の講評によりまとめがあり、実践に移す第一歩を築きました。

異口同音に楽しかった、貴重な体験できたと、または非開催してほしい、定期的に開催してほしい、普段話し合える機会がないから発言することで初めて知らない自分を発見できた、等の嬉しいお言葉を多くの方々から頂きました。参加された方々以上に計画実行した我々が貴重な体験をすることができ、大きな学びとなりました。これからも2歩下がったら必ず3歩前進することを心に刻み、邁進して参る所存です。遠い所までわざわざお越し頂き、貴重な一日を皆様と作ることができましたことを、本当に感謝しております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

本多 康裕 【プロフィール】

1987年2月8日東京都港区で生まれる。
基礎教育を学習院で学び、その後ニューヨークへ渡航。
マオリの文化に触れながらNZワイカト大学卒業
帰国後養豚食品メーカーに就職し、現在は五光設計株式会社で設計コンサルタントの仕事を担当。
武士道協会広報部でフェイスブックを担当。
武士道協会理事兼広報部長・講師養成講座受講中

ボランテイヤ

実践隊報告



武士道協会理事兼青年部長

藤島 健

季世界大会・アブダビ」に出場するユニファイドスポーツ7人制サッカーのチームの、国内選考を兼ねた大会で、7府県より9チーム、総勢約120名が参加されました。ボランテイヤスタッフは総勢でのべ300名。武士道協会として、10名を派遣いたしました。

ボランテイヤスタッフの仕事内容は、開催式典の設営・式典の運営・参加者の受付・来賓対応・参加チーム帯同となります。マニュアル作成から当日の仕事内容まで全てボランテイヤスタッフが行うため、様々な事が起きますが臨機応変に自身で考え行動することが求められます。今回のボランテイヤ参加により、日常生活においても様々な方に支えられているということを感じ、改めて他者への感謝を感じることができ、有意義な時間を過ごさせていただきました。これからも積極的に様々なボランテイヤ活動へ参加をする予定です。

(※1) スペシャルオリンピックとは、知的障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。全世界での競技人口は約550万人、ボランテイヤスタッフは約115万人。日本の競技人口は約1万人、ボランテイヤスタッフは約1万人です。

2018年6月16日(土)・17日(日)にスペシャルオリンピックス日本全国ユニファイドサッカー大会へ武士道協会としてボランテイヤスタッフを派遣いたしました。開催地は、堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター(大阪堺市)で、今大会で第3回目を迎える大会です。

ユニファイドサッカーとは知的障害のいる選手(アスリート)と障がいのない選手(パートナー)が同じチームで競技を行うことで、サッカーやスポーツを通じてお互いの個性を理解しあう関係を築く取り組みで、スペシャルオリンピックス日本(※1)が、障がいの有無に関わらず誰もがスポーツを楽しむ環境が当たり前となるよう、このようなユニファイドスポーツの普及を促進しているものです。

3年連続の開催となる今大会は、2019年にアラブ首長国連邦・アブダビで開催される「2019年スペシャルオリンピックス夏

藤島 健 【プロフィール】

1981年8月兵庫県西宮市生まれ
(2018年現在も西宮市在住)
2005年4月就職情報会社へ入社し、現在に至る
2017年1月武士道協会へ入会
2017年3月国家資格キャリアコンサルタントを取得。
小中高、社会人とサッカーを愛し、小学生のサッカーチームを指導。
武士道協会青年部でフェイスブックを担当
武士道協会理事兼青年部長・講師養成講座受講中

関東地区本部便り



武士道協会理事

飯田 浩平

ではありません。

武士道の歴史の中でも「天地自然の理法」について直接的に語られる部分はあまりありません。

しかしながら、織田信長が「天下布武」を、徳川家康が「欣求浄土」を掲げ、西郷隆盛が「敬天愛人」を心に抱いた様に、争いを収束してゆく実力をもった武士は、敵を殺し自らが上に立つという目的ではなく、万民が共生できる世の中にしようとしていました。

共生とは何か。現代社会において、いかなる心境で何を行えばよいのか。集まるたびに、時事問題や身近な問題にそくして語り合うのですが、究めに究めようとしても言葉では語りつくせない玄妙なモヤモヤを感じる中で、一定の最大公約的な結論を出すことはできませんでした。またその結論自体も観念的なものに落ち着くのではなく、天地自然の理法がどう大事であるのか、どれだけ大事であるのか、どう実行するのか。毎月集まり、話し合うたびに視野や心境を少しずつ新たにしていけることができました。

現代に生きる我々が武士道を学ぶ目的は、

この一年、われわれ関東地区本部は、武士道憲章第一章「天地自然の理法と共に生きる」のみを学び続けました。なぜ第一章だけなのかと言いますと、天地自然の理法こそが、武士道の根本でもあり結論でもあるからです。また、我々が世に顕現しようとしている「現代武士道とは何か」という問いと根を同じくするからです。

例えば、現代に生きる我々が武士道を学

ぶ際に、歴史上の武士道の行いの知識を学ぶだけでよいのか。行為や儀式を真似すればよいのか。もちろんそれも大事ではありませんが、武士道はそこにとどまるようなもの

歴史的知識の断片を集めたものにとどまらず、あるいは一時の悟りや観念的追及のみにとどまらず、現実社会に和を産み成す事です。そして自らの清明心をもって和を拡充してゆくことです。天地自然の理法はそこを学ぶ最短ルートであると思います。天地自然の理法が分かれば第二章〜十一章までの理解の仕方もまた違ったものになります。

今年一年は、参加者それぞれが、各々の生活、仕事、人生観に変化を起こしながら、日常生活の実際問題に根付いた問題を話し合う事で、日常生活における武士道の実践を、互いに戒めあい、刺激しあい、人間形成に活かし合うことができました。今後とも皆様とともに研鑽に励むことができれば幸甚です。

飯田 浩平 「プロフィール」

一九九〇年十二月十七日静岡県生まれ。中央大学文学部哲学専攻卒業。主に東洋思想を研究。現在、某社正社員として営業指導をする傍ら武士道の研究に勤しんでいる。武士道協会広報部でフェイスブック担当。武士道協会理事講師養成講座受講中。

関西地区本部便り



武士道協会理事兼京都府支部長

廣森 日出夫

関西地区本部の今年一年間の活動に關しましては、昨年の勉強会の続編、1月より武士道憲章第7章『仁愛』を学び、5月には最終章『修養』を学びました。そして、6月からは第1章『自然』から学び初めました。関西地区本部では、毎月1度京都の東山堂様の会議室をお借りし開催しております。毎月1つの章をテーマに参加者全員がその時感じる事をそれぞれ発表しあいます。

第1章から第11章まで繰り返し武士道憲章を学ぶことには大きな意味があります。

それは、各々が学ぶ時により違いがあるということ。昨年第1章『自然』を学

んだ時と、今年同じく第1章『自然』を学んだ時に感じる事は違いがあります。勉強会で使用するテキストは同じ文章でありませんが、1年間で自分自身が変化しているため、その時々で学ぶ内容が違ってきます。

勉強会の様子を紹介したいと思います。

10月の勉強会のテーマ第4章『立志』では、目標と志の違いについて学びました。

目標とは、自分の為に自分のしたいことを到着地点にすること、志とは世のため人のために役立つことで自分の目指す地点を決めることを言います。

目標は、2つの視点（自分と到着地点）。

志は、3つの視点（世の中、自分、目指す地点）。と、明らかな違いがあります。

勉強会では、自分の考える目標とは何か、志とはなにかを、考え述べます。述べることで内省が促され、日常生活において至らないことへの気づきや今後の自分の行動への道標が生まれるわけです。

関西地区本部の参加者の年齢層は30代50代60代と幅広く、経験が違うと思うことも違うわけですが、毎月参加者全員が勉強会のテキストを読み、それぞれが様々な事を感じ日常生活へ活かします。特に若い世代

は、諸先輩方から日頃の生活に対するアドバイスを伺うことができ、とても有意義な時間を過ごさせていただいております。これは、武士道協会ならではの光景ではないかと思えます。逆に、普段歳の離れた後輩から素直な気持ちを聞ける機会がここにはあるのではないかと思います。

様々なビジネス研修などは高額な費用を払い講演などを聞きに行きます。金銭的な問題ではないですが、1つの同じテーマに対する考えを会社外の方から伺い、自分の意見に対してのアドバイスをいただける場合は、何物にも変えがたい時間となっております。

関西市区本部としては、今後も毎月1度世代を超えた交流を大切にして勉強会を開催したいと思えます。

廣森 日出夫 【プロフィール】

1948年山口県生まれ

1974年春陽堂入社

1990年大学教授の協力のもとに食品検査会社設立し今日に至る

武士道協会理事兼京都府支部長

特定非営利活動法人武士道協会理事兼京都府支部長

元・新しい教科書を創る会京都支部長

新松下塾副理事長

ザ・東京・ユークラブ代議員

黎明社事務局長

座右の名：無心（強いて挙げれば）

九州地区本部便り



武士道協会 常務理事兼
熊本県支部長

亀井 三二

人間の基本的な生き方・考え方・人との接し方・行動の在り方等々、色々な角度からの学びがあるのです。会員だけの勉強会では、勿体ないと切実に思います。

また、今年の夏の納涼祭の前に、関西地区本部長の山田さんのご提案で、全国からの出席者全員での勉強会が行われましたが、大好評でした。よって12月の全国総会の前日にも出席者全員の全国勉強会開催も決定となりました。

所で、先述しましたことと重なりますが、この様な素晴らしい、大和心と武士道精神の勉強会を会員だけのものに度止めておくのは勿体ないと思います。もつと多くの一般の人たち・子を持つ親御さん達、また小中高の子供たちとも

一緒に学ぶ機会を作っていきたいと思えます。武士道に対する知名度がまだまだ低いのが現状ですが、広報部長の青山誠理事の元で、関西地区本部の藤島健さん、九州地区本部の本多康裕さん、関東地区本部飯田浩平さん等若者達がフェイスブック等で色々な情報を流しており、以前よりかは少しずつ浸透しているのではないかと思います。

今は、協会が出来て12年を迎えようとして

おります。これから益々活動内容を充実させていくように色々工夫をしております。だからこそ感じていることがあります。それは、知識習得の勉強もさることながら、今後はそれに加えて如何に行動し、実践して行くかが鍵になるのではないのでしょうか？

設立当初から大変お世話になった前理事長の塩川正十郎先生がご逝去され、生前に「武士道は活学で啓もう活動をして広めなさい」とおっしゃったこと、そして、二代目理事長は俳優で時代劇大好きの本孝明さんが新理事長に就任され、武士道協会の前途も益々充実し発展して行くものと確信しております。

最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸をお祈りいたしますとともに会のさらなる発展を祈念し、お互いに昨日より一歩前進を目指して参りましょう。

亀井 三二 プロフィール

昭和22年熊本県阿蘇市に生まれる
昭和46年熊本工業大学(現崇城大学) 卒業
学校法人君が淵学園崇城大学理事
崇城大学同窓会顧問
熊本県剣道連盟 二天一流 錬士
熊本市剣道連盟 常任理事
武士道協会常務理事兼熊本県支部長

武士道協会では、現在、関東地区本部・関西地区本部・九州地区本部の3箇所、何れも武士道憲章の11章を1章毎月1回の割合で、本部からの講師にきて頂き勉強会を行っております。先ずは、全国の流れについて、全国地区本部を担当する立場から簡潔に述べさせて頂きます。

最初のころは、武士道憲章1章〜11章までの各章毎の意味を、会員の皆さんは解っていたらっしゃり、何で今更と思われる方も多かったのではないのでしょうか？しかし、間を置き反復をすることによって、色々の角度からの学びがあることが分かってくるのです。回を重ねる度により深くより広く、

武士道で学ぶ

「心と体の免疫療法」



九州地区本部 事務局長

本山 憲一

本庶佑（ほんじよたすく）京都大教授が、2018年のノーベル賞医学生理学賞を受賞されました。日本にとって3年ぶりですが、世界に誇れる偉業でしょう。がん細胞に関わる免疫チェックポイント分子の発見と、ガン治療の確立です。医学的な詳細は省くとして、世界は、今この「免疫療法」に注目しています。ガンは近い将来不治の病ではなくなるでしょう。日本と違って先進医療最先端のアメリカでは、抗がん剤治療が主ではなく、免疫療法が中心で抗がん剤はサポート側に変化しています。

ご存じのように、免疫力（自然治癒力）が無ければ私達は生きていけません。どんな小さな病気、傷でも免疫力が無ければ、

自らそれらを癒やすことは出来ません。免疫力は、世界最高の「体内製薬機能」といつても決して過言ではないでしょう。近年、電子顕微鏡の開発が著しく進み。人体のミクロの世界が画像で生々しく放映されるようになりました。100分の1ミリの細胞群がそれぞれの役割を果たしている姿をつぶさに観察できる時代です。私達の全身を覆う血管の長さは、約10万km（地球の2周半）のネットワークだそうです。その中を免疫細胞群は、必要に応じて迅速に移動し、あらゆる病を治癒しているのです。

一体誰が何者が、このような神秘的な天地自然の摂理を作り上げたのでしょうか？細胞学で世界的に著名な村上和雄教授は、著書の中で、この何者かを「サムシンググレイト」と表現され、この言葉が世界に広まりました。

先日、NHKの「ためして、ガッテン」で免疫力アップの治験を行いベスト20位が公開されました。①昼寝（30分以内）②ウォーキング③足湯④瞑想⑤音楽鑑賞⑥緑茶⑦首にマフラー⑧首にネギ⑨マッサージ⑩人に優しく⑪筋トレ⑫入浴⑬体操⑭乾布摩擦⑮ストレッチ⑯コーヒ⑰んにく⑱温冷浴⑳お笑い。難しいものは何もありませんが、「首にネギ」は、実際に効果があり医学的には謎だそうです。おそらくネギ

の独特の臭いが関係しているのではないのでしょうか。この中の瞑想・音楽鑑賞・人に優しく・お笑いが心の免疫療法です。漫画本やアニメや映画鑑賞も免疫力がアップするそうです。どうも好きなものを作ることがポイント見たいですね。かつての武士道全盛の江戸時代、全国の各藩校は子弟の武士道教育の一環として、書道・茶道・華道・和歌俳句等も学びに取り入れていました。正に心の免疫力強化と言えるでしょう。私達も武士道憲章の学びの実践場として活用できるのではないのでしょうか。日本では2人に1人はガンに懸かり、3人に1人は亡くなっている状況です。物欲中心現代社会の飽食と過度なストレスが大きな要因です。かつての武士道時代のような健全なる魂と健全なる肉体を取り戻すためには、自己変革に優る雄弁なしです。貴方は何から始めますか！

本山 憲一 プロフィール

1949年5月生まれ・長崎県佐世保市出身
福岡大学経済学部卒
シルバー企画愛（ちか）代表
ふくおか佐世保会（在福佐世保人志）副会長
福岡大学マンドリンクラブOB会副会長
武士道協会常任幹事
民生委員・児童委員
私のモットー「生きるとは、愛すること」

活動案内 (サイト掲載)

現在info@bushido.or.jpが一時不通になっており調査中です。
そこで1月いっぱい迄にメールでお問い合わせを頂く場合は、
bushido_sokuin@yahoo.co.jpに送信して下さい。

首都圏地区本部 (東京)

毎月第4回日曜日 午前10時00分～12時で、今年から会員による活学セミナーを開催しています。
その内、年間3～4回武士道憲章の勉強が入ります。いつからでも、また、どなたでも参加頂けます。

お問合せ：青山 誠理事兼首都圏地区本部長 (電話 090-4529-2549)
メール info@bushido.or.jp

【東京での全国大会】

毎年11月第4金曜日に全国勉強会と総会、忘年会を開催します。

お問合せ：武士道協会本部 (電話080-5974-7846)

関西地区本部 (京都)

毎月1回日曜日の午前10時30分～、西陣の東山堂本店2階にてセミナーを開催しています。
内容は、武士道憲章で、毎月1章ずつ勉強しています。講義30分、意見交換45分、講評15分です。
又正午～隣の粥屋で昼食会を開催しています。いつからでも、また、どなたでも参加頂けます。

お問合せ：山田義富常務理事兼関西地区本部長 (090-8885-2007)
メール info@bushido.or.jp

【京都での全国大会】

毎年1月に日吉大社初詣と新年会です。日吉大社の真淵宮司は武士道協会の理事でもあります。
一年の始まりを日吉大社参拝で始めませんか？

お問合せ：武士道協会本部 (電話080-6762-9221)

九州地区本部 (福岡県支部・熊本県支部)

毎月第一土曜日午後2時～ 五光設計 (博多区諸岡3-10-25) にてセミナーを開催しています。午後17時30分からは親睦会を開催しています。その内、年2回は熊本県支部でもセミナーを開催する予定であります。内容は、武士道憲章で、毎月1章ずつ勉強しています。講義30分、意見交換60分、講評30分です。

いつからでも、また、どなたでも参加頂けます。

【福岡での全国大会】

毎年8月第4土曜日に全国勉強会と納涼会を開催します。

お問合せ：福岡県にお住まいの方は、本多康裕理事兼広報部長 (080-8902-9184)
熊本県にお住まいの方は、亀井三二常務理事兼熊本県支部長 (090-5085-6963)
それ以外の方は、立山雄二副理事長兼福岡県支部長 (090-3327-0823)

(注) 各会場での催し物は、突然変更することがありますので、必ず事前に各担当者へお問い合わせください。

編集後記

慌ただしく一年が過ぎ去っている様に感じるのには私だけではない様に思います。昔に比べて一日が短く感じます。私の小さい頃は、早く遠足の日が来ないかな、早く運動会にならないかな、そんな一日を過ごしていました。最近の子供までが一日が早いと言います。江戸時代は江戸から大阪へ連絡するのに1週間も10日もかかっていたのが、今は隣にいるのと同じです。この時の流れの速さは、即判断を求められ、育てなければならぬものまで即戦力即実践を求められます。せめて武士道は育つのを楽しみにするゆとりが欲しいと思った次第です。だんだん、武士道協会を支えるメンバーが若返ってきていることも含め、今は皆様に感謝するのみです。

武士道協会 〒812-0894 福岡市博多区諸岡3-10-25 E-mail:info@bushido.or.jp
事務局 TEL 092-574-2485 FAX 092-574-1987 URL http://www.bushido.or.jp

武士道協会本部 〒602-8205 京都市上京区中立売通 智恵光院東入 東山堂内

武士道協会東京 〒163-1320 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー20階

特定非営利活動法人
武士道協会
●武士道第12号
●平成30年12月発行